

# 令和4年度全国学力・学習状況調査結果

## 大町町教育委員会

大町町教育委員会では、大町ひじり学園児童生徒について、中止になった令和2年度を除き、学校の了承のもと平成26年度から全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学等の結果について公表してきました。

大町ひじり学園は、「大磨 智誠」を教育目標に小中一貫教育を推進する義務教育学校です。「夢に向かって 絆・全力・挑戦」を目標としたキャリア教育を視点に、知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指しています。今回公表する結果は、4月調査のため、昨年度の学習状況の結果と言えます。この結果は、児童生徒の現時点での一面であり、学校では、今後の学力向上対策の一資料としています。

また、大町ひじり学園はコミュニティ・スクールであり、地域と共にある学校づくりを目指しています。保護者、地域の皆様に児童生徒の学習状況・意識調査を知らせることにより、大町町の教育への関心を高め、地域総ぐるみで教育を考える機会となればと考えております。

学習状況と意識調査(家庭での学習や生活状況等)の傾向を合わせて公表することにより、保護者、地域の皆様との連携体制の構築の一資料となればと考えています。

### 1 4月調査の学力・学習状況【対県比】

#### (1) 6年生

##### ア 正答率

※ 佐賀県平均を100とした時の大町町児童生徒の平均比較値(%)

	国語	算数	理科
6年生	103%	94%	100%

##### イ 概況

- 国語が県をやや上回る。
- △ 算数は県をやや下回る。
- ・ 理科は県と同程度。

##### ウ 観点・領域

###### 国語

- ・ 「知識・技能」は、県と同程度。
- 「思考・判断・表現」は、県を上回る。
- 「話すこと・聞くこと」内容で県を上回る。

###### 算数

- △ 「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも県を下回る。

###### 理科

- 「知識・技能」は、県を上回る。
- ・ 「思考・判断・表現」は、ほぼ同程度。

## エ 児童質問紙から

### ○ 県と比較して回答割合が高く、よい傾向と思われる項目

- ・ 将来の夢や目標を持っている
- ・ 自分でやると決めたことはやり遂げる
- ・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しい
- ・ 平日の家庭学習時間について、「3時間以上」の回答割合が高い
- ・ 学校の授業以外の平日の読書時間が多い
- ・ 読書が好き
- ・ 地域の大人と過ごす機会が多い
- ・ 地域の行事に参加している
- ・ 授業で自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動が多い
- ・ 国語の勉強が好き
- ・ 理科の勉強が好き、理科の勉強は大切だと思う
- ・ 理科の授業で観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返っている

### △ 県と比較して、よくない傾向と思われる項目

- ・ 平日の家庭学習時間について、「全くしない」の回答割合が高い
- ・ 授業でICT機器を使う頻度が少ない

### ◇ どちらがよいかわからない項目

- ・ スマホ、PCをもっていない

## オ 教科の正答率の高さと相関が見られた項目

- ・ 朝食を毎日食べている
- ・ 新聞をよく読んでいる
- ・ 学習にICT機器を使わない
- ・ 書く問題で最後まで問題を解こうと努力した

## (2) 9年生

### ア 正答率

※ 佐賀県平均を100とした時の大町町児童生徒の平均比較値(%)

	国語	数学	理科
9年生	93%	96%	81%

### イ 概況

- △ 国語、数学ともに県の成績をやや下回る。
- ▲ 理科は、大きく下回る。
- △ 平均を下回る層が厚い。
- △ 思考力・活用力に課題が見られる。

### ウ 観点・領域

#### 国語

- △ 「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも県を下回る。
- △ 「書くこと」内容で、県を下回る。
- △ 「情報の扱い方」に関する事項で、県を下回る。

#### 数学

- ・ 「知識・技能」は、県と同程度。
- △ 「思考・判断・表現」は、県を下回る。
- △ 「データの活用」領域で、県を下回る。

#### 理科

- △ 「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも県を下回る。
- △ 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」すべての領域で、県を下回る。

### エ 生徒質問紙

#### ○ 県と比較して回答割合が高く、よい傾向と思われる項目

- ・ 地域の行事に参加している
- ・ 数学の勉強が好き
- ・ 数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う
- ・ 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える

#### △ 県と比較して回答割合が低く、よくない傾向と思われる項目

- ・ 自分によいところがある（と回答した生徒が少ない ※以下、同様）
- ・ 難しいことに失敗を恐れずに挑戦している
- ・ 授業でICT機器を使う頻度が多い
- ・ 授業で自分で考え、自分から取り組んでいる
- ・ 授業で自分の考えをまとめる活動を行っている
- ・ 国語の勉強が好き
- ・ 数学の授業で、もっと簡単に解く方法がないか考える
- ・ 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている
- ・ 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している

## オ 教科の正答率の高さと相関が見られた項目

- ・ スマホ、PCを持っていない
- ・ 平日のゲームの時間が2時間以内
- ・ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- ・ 平日の学習時間が3時間以上
- ・ 授業以外に読書時間が30分以上
- ・ 家にある本の数が多い(200冊以上で顕著)
- ・ 授業で課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいた
- ・ 授業で各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた
- ・ 学級生活をよくするために話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めている
  - ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う
- ・ 理科の授業では、自分の予想したことをもとに観察や実験の計画を立てている

## 3 学力向上に向けた町教育委員会の方策

- (1) 全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の分析
- (2) キャリア教育を柱とした小中一貫教育のさらなる推進  
中学生への志教育の実施
- (3) 学習指導充実のための人的整備  
(小1プロブレム解消員、特別支援教育支援員の配置、加配教員の活用)
- (4) 学校訪問による大町ひじり学園教職員への授業力向上に係る指導助言  
授業改善を目的とした小中一貫教育の研究発表
- (5) 大町町若手教員育成プログラムに基づく研修会の実施
- (6) 公設算数学習塾「まちじゅく」の開設
- (7) 小学部外国語指導の充実(学校ボランティア、ALT、小学校英語教育専科指導教員の活用)
- (8) 放課後及び長期休業中の補充学習の充実(学校ボランティアの活用)  
朝の時間の読み語り活動の推奨
- (9) 児童生徒1人1台教育用コンピュータの積極的活用
- (10) 学校運営協議会の熟議・啓発

## 4 教育長のコメント

全国学習状況調査の結果を受けて、県や国との比較をし、考察と改善策を記したい。

### (1) 基本的生活習慣の良い影響

○「自分で決めたことはやり遂げる」「いじめは良くない」「困っている人がいたら進んで助ける」「友達と話し合うことで考えを深めたり学級で話合っただけで決まったことは努力して取り組んだりする」は県と比較して高い。心が安定しており、周りとの関係性もよい。

○「国語の授業内容は分かる」「算数・数学は好き」「数学は大切」「数学の授業内容は分かる」「算数・数学は将来役に立つ」「算数・数学や理科で学習したことを生活で生かせないか考える」は県と比較して高い。学習に対して意欲的なことが数値として表れている。

心の安定や学習に対する意欲を支えているのが基本的生活習慣である。

○「朝食を食べる」「毎日同じくらいに時刻に寝る」「毎日同じくらいに起きる」は県より高い数値を示した。これらは基本的生活習慣に関わる項目である。

今後も、ご家庭と協力しながら是非、基本的生活習慣が継続できるよう啓発活動をしていきたい。

### (2) 遊具としてのデジタル機器との上手な付き合い方と「我慢する力」の涵養

○1日当たりのテレビゲームに費やす時間や動画を見る時間が県や全国と比較して多い。

○「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」の項目は県や国よりも高い。

○「読書は好き」と答えた児童は多いが、読書をする時間は少ない傾向にある。また読書環境として家庭にある蔵書（雑誌、新聞、教科書は除く）の数も県と比較して少ない傾向にある。

この結果からゲームをする時間を含め、家庭でのデジタル機器を使った遊びについての約束を見直すことと、時間を守る「我慢強さ」を身に付けさせること。そして読書の時間が増えるよう、読書環境整備も含め家庭と協力して改善を図っていきたい。

### (3) 地域連携教育の有様の改善と「感謝の心」

○「地域の方に授業や放課後で勉強やスポーツを教えてもらったり遊んでもらったりしている」という質問項目で「そうだ」と答えた割合が低い。

大町町は地域の方に協力をいただき、様々な活動を行っている。放課後のみんなの広場、学習指導、部活動の外部指導者等、充実している状態である。常時、お世話になっていることが当たり前化しているのか、してもらうのが当然と思っているのか、今後、検証していかなければならない。常に「有難いことである」という事を児童生徒に伝えていく必要がある。

### (4) 子は親（大人）の背中を見て育つ

基本的な生活に関することに継続して取り組み、感謝の気持ちを忘れず、挨拶を自分からできる子に育てていくことで我慢強い、心優しい子に育つ。そのためには私たち大人が範を示し、家庭・地域・学校と協力しながら健やかな大町の子を育てていきたい。